

<熊本 S. J. C. D. 例会 抄録>

演 題：前歯部修復に求められる技工士のベーシックワークについて

発表者：大石 真之

日付：2014年5月27日

Keywords

1. インターナル ス테인
2. 象牙質とエナメル質
3. 陶材築盛 (エナメル2層築盛)

前歯部修復に関連する歯科材料・加工法の進化は著しく、目を見張るものがあります。これらは、患者さまにとってより望ましい方向性ですので、今後もさらなる進化が続くと思われまます。

私は、現在勤務しているラボでセラミックワークを担当させて頂き、13年目を迎えたところです。今回、熊本 S. J. C. D. 5月例会での発表という貴重な機会を頂きましたので、この間、多くの先生から学ばせて頂いた事や、個人的に技工が好きで心がけてきた事などから、前歯部修復を行う上で、[形態と色調]に関する私の考える基本（ベーシックワーク）とその活用の仕方について報告させて頂きたいと思ひます。諸先生方のご指導・ご教示を頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

演 題：パーシャルデンチャーへのインプラントの有効応用

発表者：小坪義博

日 付：2014 年 5 月 27 日

keywords:

1. インプラント
2. パーシャルデンチャー
3. ノンメタルクラスプ

欠損補綴の選択には、大きく分けて3つの選択肢が考えられる。ひとつは義歯であり、固定式を希望するならば、ブリッジかインプラントになる。1～4歯程度の欠損であれば、患者は固定性の修復を望む事が多いであろう。現在の潮流からいけば、欠損補綴の方法としてインプラントを用いた補綴修復を、最初に患者に提示する傾向が見られる。

しかし、インプラント補綴治療は、誰でもが選択出来るわけではなくて、経済的な問題、全身および局所状態によりインプラント補綴を断念せざるを得ないケースも存在する。一方、ブリッジと総義歯で補綴する場合は、それぞれの治療法を問題なく受け入れてくれる患者が多いが、鉤歯に維持装置を使った部分床義歯の場合はクラスプが他人の目に触れる事をいやがる患者がいる事も少なくない。

今回、少数歯欠損の患者において、インプラントとノンメタルクラスプデンチャーを組み合わせた症例を呈示させて頂き、その審美的な特性を含め検証したい。